

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

77



市民病院 院長 神谷里明

マスクと会話

人と会う時に必ずマスクをする生活が2年以上続いています。この2年間で初めて会った人のマスクをしていない顔をほぼ見ていません。顔の大体の輪郭(マスクのため下半分はわからない)と目元、髪型しかわかりません。1人ひとりの印象が薄くなってしまい、新たに会った人をなかなか覚えられません。また逆にマスクを外した顔を見ても誰かわからない時があります。

マスクをしていてもコミュニケーションは取れます。し

かし顔の一部しか見ていない状態で相手の感情などを理解するのは難しい時があります。相手の感情を読み取る場合、口調に加え唇、頬、目元など顔全体を見て感じるものだと思います。マスクをしていても相手に今の感情をどこまで伝えられるのか。目元と声だけですべてを伝えられるのか。この2年間で目だけでもかなりのことは伝えられるように感じていますが、やはり自分の顔すべてを見せ、相手の顔すべてを見て、すべてを感じながら話をしたほうがより深く理解できると強く思っています。

コロナウイルス感染症の今後の広がりや収まり方により一部は制限がなくなっていくのかもしれませんが、日本においては以前よりマスクをすることへの抵抗感が少ないのもう少しの間はマスクをして人と会うことが続くのかなと思っています。マスクをした状態で自分の気持ちをどう相手に正確に伝えられるのか。新たな感染症の発生なども考えられますので、この新しいコミュニケーションの取り方もさらに進歩させなければならないのでしょうか。できれば来年の春くらいにはマスクなしで人と会い、話ができる世の中になっていてほしいと感じるこの頃です。